

論文要旨

本稿では、女性の「幸福度」「生活満足度」「夫婦関係満足度」が有配偶女性の第1子と第2子の出産行動に与える影響をサバイバル分析で検証した。分析に先立ち、幸福度・満足度の指標を順序ロジットで出産のその他説明変数に回帰し、その結果から各サンプルについて予測された、上記指標のカテゴリの選択確率の分布の中で、実際に観察された指標カテゴリより高い部分（観察値の下振れ率）と低い部分（観察値の上振れ率）を算出し、従来の変数とともに説明変数として導入した。

結果、①「生活満足度」の観察値の上振れが大きいと第1子出産が有意に促進され、②「夫婦関係満足度」の観察値の下振れが大きいと第1子出産がやや有意に抑制されることがわかった。また、③「幸福度」・「生活満足度」に関する変数を説明変数に含む場合に、従来から用いられる変数のごく一部の有意性について一定程度の向上が見られたが、政策的含意に影響はない程度といえる。